



建設現場にて

「子どもたちの家」、 着工しました！

やっと！やっと！ やっと！ 長年の夢だった「子どもたちの家」建設が始まりました！ 予定より1ヶ月遅れの2009年12月3日木曜日は私たちにとって忘れられない日になりました。前夜から断続的に降り続けている雨のため、出来たばかりの道路はぬかるみ、資材を積んだトラックもスタックしそうな状態でしたが、その雨も私たちのささやかな起工式を執り行っている間は止んでくれました。

午前8時、スタッフの司会で起工式が始まりました。前夜、「新しい家」のスタッフと子どもたちが考えてくれた式次第に沿って、最初に、建設の着工のお祝いと無事の進行を願うお祈りで式は幕を開けました。この建設に関わってくれた全ての人びとへの感謝の歌は、ピアノに合わせて、子どもたちとスタッフが歌ってくれました。スタッフ代表ナンシーのスピーチに続き、子ども代表スピーチは高校生のジョンソンです。続いてボランティアのKさん、Iさんご夫妻、建設業者のケムジさんからひと言ずつ、最後にモヨ代表として松下が挨拶をさせて頂きました。

30分ほどのとても心に残るセレモニーでした。子どもたちの感謝の歌を聴きながら溢れそうになる涙を抑えていましたが、自分の挨拶になり、「やっとここまで



起工式でのお祈り

辿り着きました…」と話し始めた途端、涙が溢れます。ここまでの長い道のりが頭をよぎります。言葉が続きません。皆をしばらく待たせて、気を取り直して、支援者の方々への感謝、子どもたちへの思い、この家に托する思い等々を私なりに話させて貰いました。式が終わると待っていたように雨が降り出し、土台に埋め込もうと用意した品々、この「家」に托するそれぞれの思いを書いた手紙、ある方から頂いた可愛いお地蔵さん、日本、ケニア、ウガンダのコイン、数粒のお米を入れて蠟で封印した二つの瓶は、もう少し待って「家」本体の土台に埋めることにしました。

2003年に土地を購入して以来、早や6年の歳月が経ちました。その間支え続けてくださった皆様、本当にありがとうございました。ただ、この着工も不足分の資金繰りをしながらの着工です。今後とも皆様のご支援、ご協力を心よりお願い致します。

2009年12月3日 松下

■建設プラン

基礎の掘削、鉄筋設置、コンクリート流し込み	3週間
壁面の基礎作り	2週間
礎石設置、床のコンクリート敷き	1週間
内装用の石の切断と梁作り	3週間
トタン屋根と天板を置く為の柱遣いの作成開始	6週間
窓枠とドア作り	3週間
配管工事	3週間
電気工事	3週間
内装工事	5週間
最終塗装	3週間
合計	32週間
※現場は同時進行する。	



建設スタート！！

日本キャンペーンのご報告とお願い

去る4月19日ナイロビ発、翌20日成田着。3ヶ月余りに亘る「子どもたちの家」建設ご協力お願いキャンペーンの幕が開きました。今回のキャンペーンは小林茂監督のドキュメンタリー映画「チョコラ！」上映と連動させて頂きましたので、私の日本でのスケジュールはこの映画制作チームと配給会社にお任せすることになりました。これまでは日本でのキャンペーンや報告会のスケジュールは、事前に支援者の方々と相談しながら決めてきました。今回のように決められたスケジュールに沿って動くというのは初めてでしたし、3ヶ月余りに亘る長さも初めてでした。

お伺いした県は北から北海道、秋田、宮城、新潟、長野、東京、千葉、神奈川、愛知、滋賀、三重、兵庫、大阪、奈良、広島、徳島、愛媛、福岡、佐賀、鹿児島、沖縄と1都1道1府19県に及びます。北海道では9ヶ所、新潟でも7ヶ所等々を始めとし、一つの県で細かく移動した県もあります。話させて頂く場所も劇場でのご挨拶やトーク、各地会場を借りての上映と講演会、大学や予備校でのトークや講演、会社での会、個人のご家庭での集会等々色々でした。劇場では何回か話させて頂いた所もあります。中学生さんたちが主催してくれた上映と講演もありました。今改めて数えてみると46ヶ所ほどお伺いしたことになります。時には小林監督、吉田カメラマンと一緒に、時には音楽担当のサカキマンゴーさんとご一緒させて頂きました。その合間を縫ってマスコミの取材がありました。新聞、テレビ、ラジオ、雑誌



新潟・劇場公開のあとのトーク

等々本当に多くのメディアに取材をして頂き、時には深夜に及んだこともあります。

今、思い出しても怒涛のような日々でした。その間各地でどれほど多くの方々にお会いしたことでしょう！どれほど多くの方々にも励まされ、勇気付けられたことでしょう！その方々のおかげで厳しい日程をどうにか最後まで走り切ることが出来ました。本当にありがとうございました。取り分け、各地で迎えてくださった方々の準備のご苦勞は計り知れません。感謝の気持ちで一杯です。またその呼びかけに答え、劇場に、会場に足を運んでくださった全ての方々にも心よりお礼申し上げます。

おかげ様で、このキャンペーンを通じ「子どもたちの家」建設のためにと多くの方々からご寄付を頂きました。重ねて心よりお礼申し上げます。

以下そのご報告です。

● 8月末現在収支

ご寄付総額 5,274,227円－（マイナス）経費（交通費、日本への航空運賃、日本国内移動費＋宿泊費）433,644円＝4,840,583円

またこのキャンペーンとは別に現在までに「子どもたちの家」建設資金としてお預かりしているお金が1,538,851円あります。それに今回のキャンペーンのご寄付を加えると総額6,379,434円になります。予算は建物、塀、家具＋事前の水道設置を含めて9,322,978円です。他にも色々経費がかかります。それらを含めると10,000,000円ほどかかるのではと予想していますが、今回思い切って着工を決意しました。本年11月2日着工です。新たなご協力をお願いしながらの苦しい資金繰りになります。皆様の重ねてのご協力を心よりお願いしつつ、キャンペーンのご報告とお礼とさせて頂きます。

松下

今年もナイロビマラソンに参加しました。



「皆いる?」「イエス!」「皆完走?」「イエス!」力強い答えが返ってきました!過去2回に続き今回も全員完走です。10月25日(日),第7回ナイロビマラソン、モヨとしては3回目のチャリティ・ランでした。今回はファミリー・3キロにリチャード(6才)、ザキアス(10才)、テル(63才)の3名、10キロにはエマニュエル(12才)、ジョン(12才)、ブグワ(14才)、ムトゥリ(14才)、ブル(17才)、アントニー(スタッフ・18才)、ジュディ(スタッフ・23才)、ナンシー(スタッフ・28才)の8名、21キロのハーフにはケヴィン(14才)、フランシス(スタッフ・19才)、ピウス(スタッフ・21才)、ピーター(22才)とムイガイ(23才)の5名、総勢16名のチームです。また日本から駆けつけてくださったMさんとボランティアのKさんは写真係も担当、力強い応援団です。

今年度の注目は初参加のちびっ子3兄弟(リチャード・ザキアス・エマニュエル)と、新しく入所したムトゥリのマラソン初挑戦、ケヴィンの21キロ再挑戦。レースを終えて、兎も角驚きました!ザキアスはまるで短距離競争のようなスピードで、先頭集団でゴール!6才のリチャードも私を大分離してゴール!自信をつけ

たザキアスは「来年は10キロ完走を目指す」と張り切っています。ムトゥリは初参加にもかかわらず10キロではチームで一位、早速「来年は21キロを!」と闘志を燃やしています。身体が小さく、しかも初参加で10キロ挑戦のエマニュエルを心配していたのですが、チームで二位の堂々のゴールには本当に驚かされました。2倍ほどもある大人たちに混じってのゴール写真に涙が出そうでした。今回21キロ再挑戦のケヴィンは安定した走りでの完走、42キロに向けて静かな闘志を燃やしているようです。昼食後走者全員の完走を祝い、またお礼を言って今回のチャリティ・ランの幕を閉じました。

最後に、このマラソンを通じてスポンサーしてくださった方々に心よりお礼申し上げます。現在まで11名の方々が既にご寄付くださったり、スポンサーを申し出てくださいました。本当にありがとうございます。重ねてお礼申し上げます。経費を引いた残りは「子どもたちの家」建設資金の一部として大切に使用させていただきます。またMさん、日本からわざわざ来られての応援をありがとうございました。とても励まされました。次回是一緒に走れるのを楽しみにしています。

今後も「良く頑張ったね」賞でご寄付を募ります。ご協力をよろしくお願い致します。 松下

ストリートの子どもたちへの支援

エドウィンとジョロゲ

昨日(10月14日・水)キャンドウトウ・スラムを歩いていた時のことです。後方から呼びかける男性の声をします。その方がその日私達が会いに行ったエドウィン・ジョロゲ(通称エドウィン・13才)とケネディー・キマニ(通称ケン・12才)の父親Mさんでした。本当に偶然でした。週に一日、水曜日を家庭訪問日と決めて、その日が初めての実行日でした。その道の途中で一番お会いしたかったご本人にお会い出来たのは本当にラッキーとしか言いようがありません。母親のEさんには何度かお会いしたのですが、父親のMさんにお会いするのは初めてでした。Mさんは病院を退院されたばかりで、とても弱々しく見受けられ、薬を手にされていました。「今、薬を貰ってきたところです。私も妻もエイズですので…」と言いながらお宅に案内されました。Eさんはお仕事に行かれたとのことでお留守でした。

エドウィンとケンの兄弟の下には5才と2才の弟がいます。「私が働いていた間はどうかになったのですが、病

院へ入退院を繰り返しているこの状態ではもうどうにもなりません。出来れば上の二人だけでも何処かの施設にでも預かって貰えれば助かるのですが…」と静かに話されます。エドウィンは幾つかのNGOを遍歴した後更生院へ入所、モヨの仲介で9月半ばに更生院を出所の許可を貰ったばかりです。弟のケンは小さくて更生院へは入所しなかったものの、幾つかのNGOで暮らした後、路上に舞い戻り大分経ちます。最近二人ともほとんど家に帰って来ないとのことです。無口なエドウィンとやんちゃでおしゃべりなケンの兄弟はシンナー歴は長いのですが、それほど重症には見えません。それだけに早く手を打つ必要があります。一日も早く路上生活から抜け出させ、シンナーを断たせたいと明日Mさんと一緒に児童局へ相談に行くことになっています。良い方途が見つかれば良いのですが…。

このところティカではストリートの子どもたちが増え始めています。焦らず、根気強く一人一人に対処していきたいと思います。 10月15日・松下

モヨ・チルドレン・センター訪問記



郭 晃彰
(早稲田大学人間科学部)

昨春、私はアフリカへの理解を深めるイベントの企画を進める中で、偶然にも「空腹を忘れるために」という仮題を持った映画に出逢った。後に「チョコラ」と名を変え、全国各地でステレオタイプ的なアフリカ像を打ち破ることになる作品である。

それはまさに私が求めていた、現地での撮影を追体験できるような、また訪れた経験がある者にとっては、懐かしい記憶が掘り起こされるような暖かみのある映像だった。ストリートで生きる子どもたちが、過酷な環境に身を起しながらも、強かに生き抜こうとする姿に魅了され、それ以降ずっと関わって来た。

画面越しに触れてきた彼らに一目会ってみたい。そんなシンプルな思いが芽生え、友人五名と共に、モヨ・チルドレン・センターを訪問することを決めた。短い期間ではあったが、次郎の犬小屋作り、「子どもたちの家」建設予定地の整備など、微力ながらお手伝いさせて頂いた。ティカでの生活において感じたのは、子どもはどこで生

きていようと、同じ子どもである、ということだ。確かに彼らと日本の子どもとは、離れた土地に住み、異なる文化を持っている。幼くして親や友人を亡くした体験もはるかに多いかも知れない。しかし、何か思春期だった時の私たちと違うか、と問われれば、それに答えることは難しい。同じように、大人の指示に従うことに反発し、女性やセックスに関心を持ち、体裁に気を配る。叱られたあとはバツが悪そうに肩を狭くし、別れの際には視線を逸らし、素っ気ない態度を取ろうとする。その可憐な姿が、万国共通でなによりも強い魅力を放っているのだ。

子どもは無限の可能性を秘めた存在である。だからこそ彼らの命は、何よりも守られなければならない。使い尽くされてきた言葉ではあるが、命のリレーを繋ぎ続けるために、立脚すべき原点ではないだろうか。そのことにモヨ・チルドレン・センターは改めて気付かせてくれた。

最後に貴重なスペースを割いて頂いたことに感謝の意を表し、訪問の報告としたい。ありがとうございました。

「モヨ・チルドレン・センターを支える会」会員募集

お一人でも多くの方に、一社でも多くの法人にご入会いただき、当センターを支えて頂ければ幸甚です。

		年会費	
		個人会員	法人会員
①正会員	日本	6,000円	20,000円
	ウガンダ・ケニア	4,000KSH	13,000KSH
②賛助会員	日本	3,000円	3,000円
	ウガンダ・ケニア	2,000KSH	2,000KSH

■経過報告(2009年8月末現在)
 正会員：日本113名(10名増)・ケニア1名・イギリス1名 計115名
 賛助会員：日本160名(77名増)
 特別会員：日本38名(1名減-正会員へ移行)・ケニア2名・計41名
 法人会員：5社・グループ4
 総会員数：個人315名・法人5社・グループ4
 ■「支える会」よりお願い
 郵便振替用紙を同封させて頂きました。通信欄に、会員番号、送金の趣旨(〇〇年会費・無指定寄付・〇〇指定寄付)等をご記入ください。皆様のご協力を心よりお願い致します。
 ■「支える会」会費/寄付受付先
 口座名：モヨ・チルドレン・センターを支える会
 代表者：高塚政生※郵便振替口座番号：01660-1-73996
 ■お知らせ
 ケニアがリアルタイムで伝わる松下照美のブログ更新中です。HPからアクセスしてください。http://moyo.jp/

ODA-NGO ネットワーク ケニア・ア・ラ・カルト ⑤

ケニアには1995年に発足されたODA-NGOネットワーク(通称ODANGOの会)があります。勿論モヨもメンバーに入っています。原則として奇数月の最終金曜日に集まり、見学会・勉強会・意見交換会などを行っています。持ち回りで幹事を担当し、事務業務(ロジスティック)はJICAの担当です。

現在の主要なメンバーは17団体。メンバー加入に制限はありません。メンバーの活動は、子供関係・医療関係・学校関係など多岐にわたり、特徴は長年にかけて活動されているNGOが多いことです。メンバー間の交流も活発で、ボランティアの人が他のNGOに滞在することも頻繁に行われていて、貴重な体験となっています。

世界の中でこのようなネットワークが10年以上も続いているのはケニアだけと言われています。(高橋)

モヨ・チルドレン・センターの歩み

1997年11月/ケニア政府大統領府 NGO ビューロー・インターナショナル NGO 登録の申請書類提出。
 1999年9月/ケニア政府より国際NGOとして「モヨ・ホーム」正式に認可・登録される。
 2000年10月/ティカにて、本格的に活動開始。
 2001年5月/「モヨ・ホーム」から「モヨ・チルドレン・センター」に改名。
 2004年4月/「モヨ・チルドレン・センターを支える会」発足。

編集後記
 ◎皆様のおかげで「子どもたちの家」いよいよ着工です！完成目指して気持ちを引き締めています。今後ともご協力をお願い致します。優香さん長い間ありがとうございました！(テル)
 ◎日本に本帰国することになり、約8年住んだケニアは私の第2の故郷となりました。これからもケニアをモヨの活動を見守り続けたいと思います。(優香)
 ◎「子どもたちの家」、どんな試みができるのか楽しみです。(英)

モヨ・チルドレン・センター ●ケニア政府 NGO 局登録番号：OP.218/051/97223/1006
 P.O.BOX 2712 THIKA KENYA TEL：254(ケニアの国際番号)-(0)20-2121356 E-MAIL：moyo@africaonline.co.ke
 モヨ・チルドレン・センターを支える会 ●〒799-0702 愛媛県四国中央市土居町小林 1785-1 高塚政生方
 TEL/FAX：0896-74-7920 携帯電話：090-11715632 E-MAIL：tmasao@d1.dion.ne.jp

■これまでのモヨ・チルドレン・センター日本支部は「モヨ・チルドレン・センターを支える会神奈川支部」になりました。連絡先はこれまで通り 〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部 1916 青木康子：TEL/FAX：044-433-3447